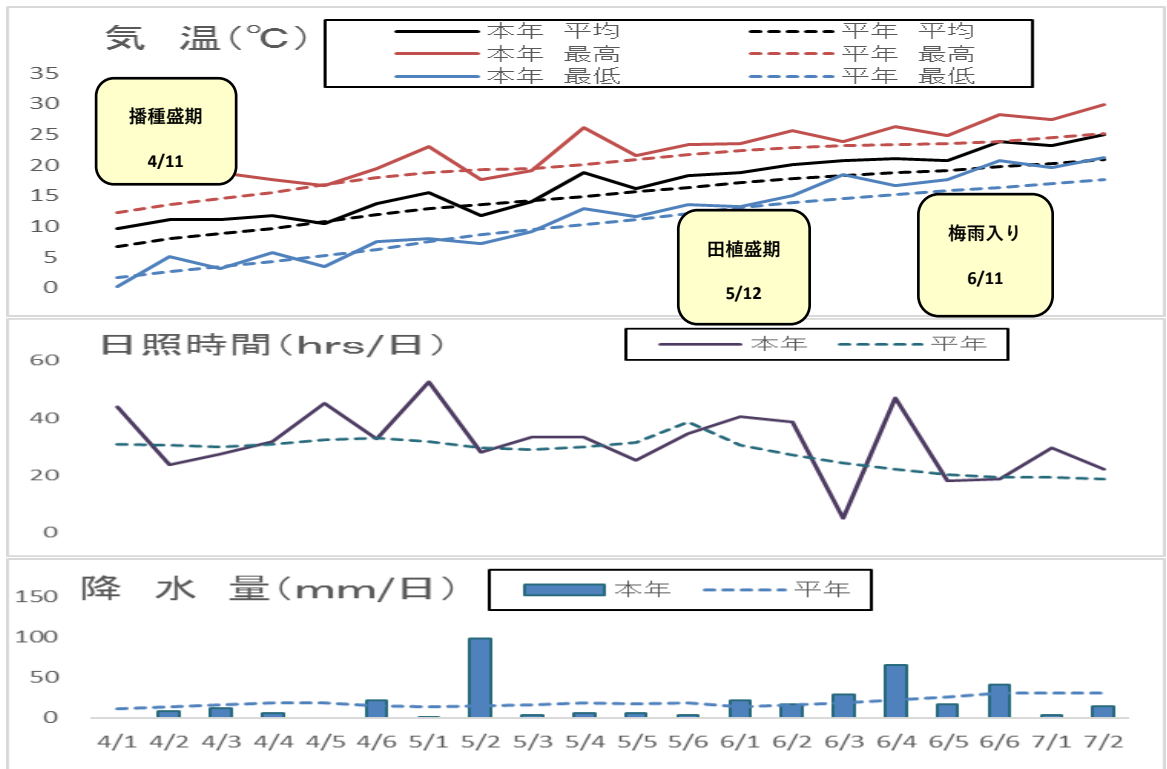


～生育ステージはやや早く ひとめぼれは幼穂形成期に達している～

～葉色を見ながら適期に追肥を 葉いもちの発生に注意しよう～

1 令和5年の気象(古川アメダス)



◆7/6 発表 東北地方の1か月予報(7/8～8/7までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率70%、平年並みの確率20%、低い確率10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率40%、少ない確率20%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 07/08～08/07	10% (低い) 20% (平年並) 70% (高い)
		1週目 07/08～07/14	10% (低い) 10% (平年並) 80% (高い)
		2週目 07/15～07/21	10% (低い) 20% (平年並) 70% (高い)
		3～4週目 07/22～08/04	30% (低い) 30% (平年並) 40% (高い)
降水量	東北地方	向こう1か月 07/08～08/07	20% (低い) 40% (平年並) 40% (高い)
日照時間	東北地方	向こう1か月 07/08～08/07	40% (低い) 30% (平年並) 30% (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況（7月10日）〔宮城県古川農業試験場・農業改良普及センター調査〕

(1) 作況試験 5月10日植え ひとめぼれ（古川農業試験場）

- ・草丈は68.2cmで平年比113%，茎数は685本/m²で平年比114%である。
- ・葉色（GM値）は38.1で，概ね平年並み。
- ・葉数は10.9枚で平年より0.6枚多く，生育ステージはやや進んでいる。
- ・幼穂長は2.0mmで，7月7日頃に幼穂形成期に達したとみられる。今後，平年並みの気温で推移した場合，出穂期は7月30日～8月1日頃（平年8月2日頃）と予想される。

移植日	草 丈		茎 数		葉 色		葉 数		幼 穂 長	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	平年差 (枚)	本 年 (mm)	平年差 (mm)
5月10日	68.2	113	685	114	38.1	▲1.3	10.9	0.6	2.0	0.3

(2) 生育調査ほ 県内品種別（農業改良普及センター）

- ・草丈は65～67cm程度で，平年比107～113%である。
- ・茎数は500～539本/m²，平年比88～102%で，概ね平年並みである。
- ・葉色（GM値）は38～42程度で，やや低下してきている。

品種名	草 丈		茎 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
ひとめぼれ	66.7	107	500	94	38.4	▲1.9
ササニシキ	65.5	109	530	88	38.0	▲0.4
つや姫	66.5	113	539	102	41.7	▲1.4

(3) 幼穂の生育状況【参考】

- ・7月7日調査；石巻地方の「つきあかり（ひとめぼれより2日程度早い品種）」で，幼穂長4.5mm，「ひとめぼれ」で0～5mm。

3 今後の管理

(1) 肥培管理

- ・県内平坦地帯における「ひとめぼれ」や「ササニシキ」等の中生品種は，概ね「幼穂形成期」に達している。
- ・7月10日現在の葉色を見ると，「ひとめぼれ」では期待葉色値並み，「ササニシキ」及び「つや姫」は期待葉色値よりやや高めに推移している。
- ・目標茎数が得られなかった場合や葉色の低下が明らかな場合は，適期に追肥を行い生育量を確保する。

◆品種ごとの追肥窒素量(kg/10a)は，以下を目安にする。

品種名	ひとめぼれ	ササニシキ	だて正夢	金のいぶき	つや姫・まなむすめ
幼穂形成期	1	-	-	1	2
減数分裂期	1	1～1.5	2	1	-

◎「だて正夢」の場合、有効茎数が少なく穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kgずつ分けて施用し、適正籾数の確保を図る。

◎「金のいぶき」の葉色は、「ひとめぼれ」に比べ淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下する。このため、減数分裂期の葉色値（SPAD502値）が30以下にならないよう、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg程度施用し、減数分裂期の葉色値を30～32程度に維持する。

(2) 病虫害防除（宮城県病虫害防除所 発生予報第6号より）

① いもち病

- ・防除所の予報では、葉いもちの全般発生時期は「平年並みの7月第3半旬」で、発生量は「やや多」と予想されている。
- ・BLASTAMによる感染好適条件の推定結果では、今年は、6月28日以降、感染好適条件が県内の広域で出現している。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/28	○	●	●	—	●	●	●	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	—
6/29	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	●	—	—	—	—	—
7/1	●	●	●	●	—	●	●	—	●	—	—	●	●	—	—	●	—	—
7/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
7/3	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/6	○	●	●	●	—	●	—	●	—	—	—	●	—	—	●	●	●	●
7/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/9	△	●	●	●	●	●	●	●	●	—	●	—	—	—	—	●	—	—

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上, 平均気温15～25℃, 前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが, 前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
—	好適条件なし	

- ・ 定点調査ほ(古川農業試験場)では、6月下旬以降「葉いもち」の発病株率及び株あたり病斑数が急増し、いずれも平年を上回って推移していることから、防除所では7月10日付けで葉いもちの注意喚起を図るため「防除情報 第2号」を発行した(下図参照)。

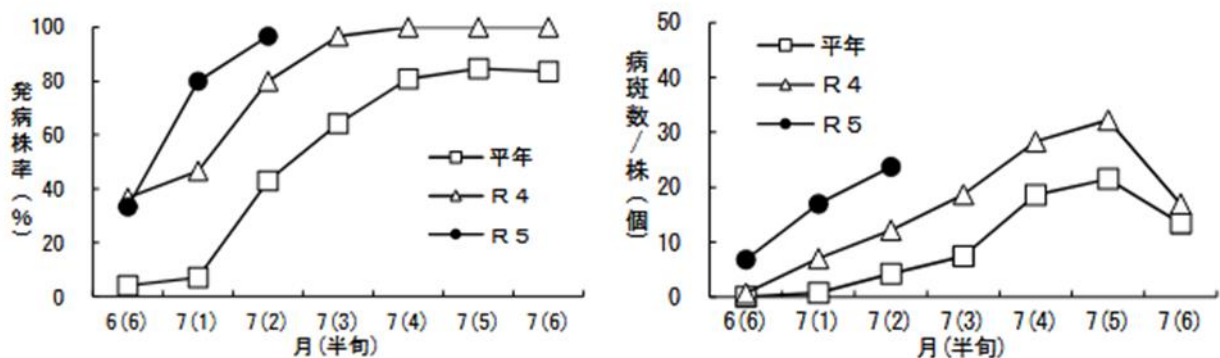


図1 定点調査ほにおける葉いもちの発病株率(左)、株あたり病斑数(右)

- ・ ほ場をよく見回り、発病が見られた場合は速やかに防除する。

② 斑点米カメムシ対策

- ・ 防除所の予報では、第1世代成虫の発生盛期は平年よりやや早い「7月第4半旬」で、発生量は「平年並み」である。
- ・ 水田周辺の草地で行ったすくい取り調査によれば、「アカスジカスミカメ」成虫の発生地点率は平年より「やや高く」、すくい取り虫数は「平年並み」であった。
- ・ 本年は、平年より出穂期がやや早まると思われるので、発生源となる畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、遅くとも7月20日頃までに草刈りを終了する。



【アカスジカスミカメ】



【アカヒゲホソミドリカスミカメ】



【クモヘリカメムシ】

(画像提供 宮城県病害虫防除所 HP より)

(3) 出穂後の水管理

- ・ 出穂後の水管理は、通常「出穂後30日間の間断かんがい」を行うことで、整粒歩合が高くなる。
- ・ ただし、登熟に不適な30℃以上の高温や夜温が高く推移する場合は、稲体の消耗による登熟不良や玄米品質の低下を軽減させるため、気温より低い用水の「かけ流し」が有効である。
- ・ 気象庁発表の「東北地方の3か月予報」によれば、8月も高温傾向で推移することが予想されている。「白未熟粒」が多発した令和元年も同様に高温で推移したことから、「みやぎ米」の品質低下を避けるために可能な限りの対策(水管理)を実施する。